

第58回九州医療ソーシャルワーカー研修会ふくおか大会

開催要項

- 大会テーマ 『今こそ原点回帰！
～医療ソーシャルワーカーの真価を問い、
進化を遂げる～from ふくおか』
- 開催日 2022年11月19日（土）・20日（日）
- 開催方法 オンライン（ZOOMミーティング）
- 主催 九州医療ソーシャルワーカー協議会
第58回九州医療ソーシャルワーカー研修会ふくおか大会実行委員会
（一般社団法人福岡県医療ソーシャルワーカー協会）
- 参加定員 250名（予定）

【大会趣旨】

第58回九州医療ソーシャルワーカー研修会ふくおか大会は、ソーシャルワークに必要な考察力、実践力、仲間作り、組織作り、地域作りなど、新鮮なプログラムを準備しています。

実行委員会で開催方法を協議して参りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、今回はオンラインで開催することにしました。オンラインのメリットを最大限に生かした工夫を取り入れています。楽しみにして下さい。

さて、虐待のない温かな家庭に生まれ、イジメを受けることもなく楽しく学校生活を送り、労働基準法を遵守する企業で勤め、素敵な人と出会い、安心して出産や子育てができ、老後は退職後に年金でのんびり暮らす。病気や介護が必要になっても安心できる社会制度があり、社会から孤立することがない世界。これらの『普通』と思う暮らしが、もはや『普通』ではなく厳しいと思う現実になっています。生活を支援する私達医療ソーシャルワーカーも、社会経済や診療報酬等により、求められる役割や働く環境が多様化しています。だからこそ、私達の役割や未来について考えてみませんか。

大会テーマは「今こそ原点回帰！～医療ソーシャルワーカーの真価を問い、進化を遂げる～from ふくおか」です。今まで医療ソーシャルワーカーは、社会構造が変化していく中でソーシャルワークのあり方を考え実践し、進化してきました。過去から学びヒントを得て、いま私達が取り組むべき事項について話し合い、ソーシャルワークに必要な実践力を磨き、明るい未来へ反射していきたい。そのような思いを大会テーマに込めています。

今大会を医療ソーシャルワーカーとして、更なる成長のきっかけにさせていただきたいと思います。皆様の参加をお待ちしております。

大会長 浦川 雅広

大会スケジュール

【1日目】 2022年11月19日（土）

時 間		内 容
13時00分	開 会 式	
13時20分～14時20分	基 調 講 演	テーマ 「21世紀のニッチを探そう」 講師：竹内 一夫先生
14時20分～14時40分	休 憩	
14時40分～16時40分	シンポジウム	テーマ 「皆で語ろう！！医療ソーシャルワーカーの未来 ～それぞれの世代が感じていること～」 座長 武田内科 MSW 大垣 京子氏 シンポジスト アップルハート柏の森ケアプランセンター 介護支援専門員 金蔵 常一氏 小倉記念病院 MSW 長嶋 史門氏 夫婦石病院 MSW 坂口 華加氏
16時40分～17時00分	休 憩	
17時00分～18時00分	研 究 発 表	
18時30分～20時00分	懇 親 会	オンライン懇親会

【2日目】 2022年11月20日（日）

9時00分～12時00分	ワークショップ	①キャリアラダー 講師：静岡福祉大学 社会福祉学部 福祉心理学科 教授 檜木 博之先生 ②ソーシャルアクション 講師：NPO 法人 Social Change Agency 横山 北斗先生 ③意思決定支援 講師：キャンサー・ソリューションズ株式会社 桜井 なおみ先生 ④援助技術 講師：駒澤大学 文学部 社会学科 社会福祉学専攻 教授 荒井 浩道先生 ⑤退院支援 講師：日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 林 祐介先生
12時15分～12時45分	閉 会 式	
12時45分	閉 会	

【1日目】 2022年11月19日（土） 13:20～14:20

基調講演



竹内 一夫 先生

〔講師略歴〕

1944（昭和19）年7月、神戸市兵庫区で生まれ。
1970年に関西学院大学大学院を卒業し、淀川キリスト教病院にMSWとして勤務開始。その後老人専門病院、診療所のMSWとして1991年3月まで勤務。同年4月川崎医療福祉大学で教壇に立ち、1998年4月から平安女学院大学、2012年4月から2018年3月まで兵庫大学に勤務。現在は大阪の診療所でMSW・カウンセラーとして原則土曜日のみ勤務。子育て支援のカウンセリングをはじめ、在宅療養の支援、各種福祉制度活用の支援を担当中。今年で医療現場に関わって54年になりました。趣味はカメラ、山歩き、料理、最近はジャムづくり。

「21世紀のニッチを探そう」

MSWとして医療の世界に足を突っ込んで、あっという間に54年経ちました。この間、医療を取り巻く環境は様々に変化してきました。それに伴いMSWとして担うべきと考える業務内容も変化してきました。20世紀末から21世紀初頭にかけて、社会福祉基礎構造計画、社会保障構造改革が実施されるにつれ、患者の自己決定権の遵守、患者中心の医療の実現等が、大命題として取り上げられました。それが実体としてすべての医療現場で実現されたとは言えない状況の中ではありますが、MSWとしては是非とも貫徹しなければならない課題があります。加えて我が国でもこの時期はネット環境が整い、医療についても、福祉についても情報収集が簡単に出来るようになり、正しい情報を利用者さんに持ってもらうように、情報の取捨選択についてのノウハウを提供する必要性が出てきました。

医療の世界ではさらに、DPC/PPS、クリニカルパスの導入というMSWの仕事に大きな影響を与えたシステムの変更がありました。MSWの先達も、国民皆保険や老人医療無料化などの大きなシステム変更の影響を受けていました。彼らは、このような大きな流れの中で、常に自らのニッチ（生物学的に適応していける場所：MSWにとっては、利用者とその時代にどうしても必要とされる支援、それを実施するMSWが拠って立つ論拠）を見つけ出してこられています。だからこそ我々が今存在できているのです。

ならば、2022年、我々はどこにMSWとしてのニッチを見つけ出すのか？皆様方と共に考えてみたいと思います。

シンポジウム

「皆で語ろう！！

医療ソーシャルワーカーの未来～それぞれの世代が感じていること～」

本シンポジウムは、医療ソーシャルワーカーの未来について、登壇者とフロアの皆様と一緒に、ワイワイと賑やかに、大いに語り合う機会にしたいと思います。

座長には、現在もMSWとして活躍し続ける大垣京子さんをお迎えしました。シンポジストには、それぞれのステージで躍動する年代の異なる3名を迎えています。シンポジストの報告では、キャリアを積み重ねるうえでの課題や、MSWとしての魅力・アイデンティティについて率直な思いをご報告いただく予定です。ご参加の皆さんには、報告やディスカッションを通して紹介された、MSWの課題や魅力を「自分ごと」として感じて頂き、MSWの魅力を再認識することで、きっと元気になっていただける事でしょう。どうぞ期待下さい。

◆座長 大垣 京子 氏
武田内科 医療ソーシャルワーカー

[略歴]

早良病院（現 福岡ハートネット病院）の医療ソーシャルワーカーとして勤務。退職後は、大学の教員として5年間勤務。現在も武田内科で医療ソーシャルワーカーとして臨床を続けている。元福岡県医療ソーシャルワーカー協会会長。

◆シンポジスト 金蔵 常一 氏
アップルハート柏の森ケアプランセンター 介護支援専門員

[略歴]

1988年 日本福祉大学社会福祉学部卒業。飯塚恵仁会筑豊病院に病院初の精神科ソーシャルワーカーとして勤務。その後、九州厚生年金病院（現在のJCHO九州病院）、特定医療法人順和長尾病院、併設の老人保健施設、新生会病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務。2018年から介護支援専門員となり、現職。

◆シンポジスト 長嶋 史門 氏
小倉記念病院 医療ソーシャルワーカー

[略歴]

2000年4月 熊本大学教育学部 生涯スポーツ福祉課程 卒業。2004年4月大分大学大学院福祉社会科学科修了。2006年4月 小倉記念病院に医療ソーシャルワーカーとして入職、現職。同法人 医療連携課 主任。

◆シンポジスト 坂口 華加 氏
夫婦石病院 医療ソーシャルワーカー

[略歴]

2019年 筑紫女学園大学人間科学部卒業。同年4月 医療法人社団誠仁会 夫婦石病院に医療ソーシャルワーカーとして入職、現職。

ワークショップ①

『キャリアラダー』



静岡福祉大学 社会福祉学部 福祉心理学科 教授
檜木 博之 先生

〔講師略歴〕

- 1995年4月 医療法人社団清陽会御殿場高原病院
医療ソーシャルワーカー
- 2001年4月 医療法人社団清陽会居宅介護支援事業所 介護支援専門員
- 2006年3月 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻
修士課程修了
- 2011年4月 日本福祉子ども専門学校 非常勤講師
- 2012年4月 身延山大学仏教学部 准教授
- 2019年4月 静岡福祉大学社会福祉学部 准教授
- 2022年4月 静岡福祉大学社会福祉学部 教授

「ソーシャルワークマインドで紡ぐキャリアラダーを作成しよう」

診療報酬に社会福祉士が位置づけられて16年が経過します。私たちは、臨床を通じての個々の成長だけでなく、計画的な育成、部門としての成長も求められるようになりました。後輩の成長を支えたいけど「指標を示せない」「ソーシャルワーカーに大事なキャリアって何だろう」「自分のキャリアにも悩んでいる」など悩みは多いと思います。

普段は語りづらい理想や不安を檜木先生や九州の仲間と共有しながら、ソーシャルワークマインドで紡ぐキャリアラダーを一緒に作ってみませんか？

ワークショップ②

『ソーシャルアクション』



NPO 法人 Social Change Agency 代表理事
ポスト申請主義を考える会 代表
横山 北斗 先生

〔講師略歴〕

社会福祉士、社会福祉学修士
武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 非常勤講師
医療機関で社会福祉士(MSW)として勤務後、NPO 法人を設立
医療機関・通所介護・依存症回復施設・学童保育・計画相談事業所、
自立生活援助(障害福祉サービス)等での相談やケア、管理業務に従事

- ・東京都文京区地域福祉活動計画 委員(2019年～)
- ・内閣官房孤独・孤立対策担当室 HP 企画委員会 委員(2021年～)

「MSW の現場からソーシャルアクション実践を設計する
～NPO 職員の実践事例を補助線にして～」

ソーシャルアクションと言っても「何をしたいかわからない」、「院内の業務も多く、ハードルが高い」などと感じていませんか？

今回のワークショップでは、「ひとりのクライアントとの関わりの中にミクロの課題をメゾ・マクロに繋げていくヒントがある」という前提に立ち、ご自身が身を置く実践現場において、でき得るソーシャルアクションについて考えるきっかけをご参加のみなさんと持たせていただきたいと思います。

「地域へ出たい、アクションをおこしたい」と言った気持ちを持たれているみなさまのご参加をお待ちしております。

ワークショップ③

『意思決定支援』



キャンサー・ソリューションズ株式会社
桜井 なおみ 先生

〔講師略歴〕

東京生まれ。大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にてまちづくりや環境学習などの仕事に従事。2004年、乳がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始、現在に至る。一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、キャンサー・ソリューションズ(株)代表取締役社長、NPO法人HOPEプロジェクト理事長、として活動。技術士(建設部門)、社会福祉士、精神保健福祉士、産業カウンセラー。

「意思決定支援～ソーシャルワーカーにできること～」

近年医療ソーシャルワーカーは早期から介入を開始することが多くなってきており、チーム医療の中でも相談援助技術の専門職として意思決定支援の能力を求められるようになってきています。

このワークショップでは、講義や事例検討を通して意思決定支援について学び、考え、意見を交わし、明日から皆さんが意思決定支援を行なう際に大切にしていきたいものを見つけて頂けるような時間にしたいと思っています。

実際に患者さんの立場を経験された桜井先生の体験談、患者さんの立場から見た支援者へのメッセージなども聞かせて頂ける貴重な機会でもありますので、みなさんぜひ私たちと一緒に学びましょう。

ワークショップ④

『援助技術』



駒澤大学 文学部 社会学科 社会福祉学専攻 教授
荒井 浩道 先生

〔講師略歴〕

1973年、群馬県生まれ。早稲田大学卒業、早稲田大学大学院修了。博士（人間科学）、社会福祉士。早稲田大学助手、駒澤大学専任講師、駒澤大学准教授等を経て、駒澤大学教授。早稲田大学非常勤講師、明治大学兼任講師、泉龍寺（群馬県）住職を兼務。実務経験として、地域包括支援センター社会福祉士（非常勤、9年）、東京都公立学校スクールカウンセラー（非常勤、6年）。学会活動として、日本ソーシャルワーク学会理事、日本認知症ケア学会理事、日本社会福祉学会代議員など。著書に『ナラティブ・ソーシャルワーカー “〈支援〉しない支援”の方法』（単著、新泉社、2014）『ソーシャルワーカーのジリツ』（共著、生活書院、2015）、『ソーシャルワーカーのソダチ』（共著、生活書院、2017）など。現在、研究課題「誰も排除しないナラティブ・アプローチ教育プログラムの開発と評価」（科研費、令和3年度～令和6年度）に取り組んでいる。

「ナラティブ・アプローチ入門」

このワークショップでは、ソーシャルワークの新しい支援方法である“ナラティブ・アプローチ”について学びます。

ナラティブ・アプローチは、クライアントが紡ぐ“物語”や“語り”に注目します。

そして“言葉”を、“メス”ではなく、“包帯（ほうたい）”のように使うことで、“結果としての問題解決”を目指す方法です。とくに、通常の支援には馴染まない“困難事例”とよばれるクライアントに対して有効です。ワークショップでは、“無知の姿勢”、“専門性の鎧を脱ぐ”、“余白づくり”、などのナラティブ・アプローチの基本的考え方や技法について解説します。

また、演習を多めに行うことで、ナラティブ的面接技法について体験的に学習します。

ワークショップ⑥

『退院支援』



日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授
林 祐介 先生

〔講師略歴〕

- 2005年4月 名南ふれあい病院 医療ソーシャルワーカーとして入職
2017年3月 日本福祉大学大学院 福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻
(博士課程) 修了
2018年4月 同朋大学 社会福祉学部 社会福祉学科 専任講師
2021年4月 同朋大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授
2022年4月 日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授
(現在に至る)

「効果的な退・転院支援」

医療ソーシャルワーカー（MSW）の専門性を活かしつつ、効果的な退・転院支援を行うためにはどうしたらいいのか悩みを持ちつつ、支援を行っている方が少なくないのかなと思います。MSWは医療機関と地域をつなぐ重要な役割が期待される一方で、病院組織の一員として限られた時間で支援しなくてはならない現状があります。そのような状況下で、ジレンマを感じる場面が多々あると考えます。加えて、少子高齢化や家族関係の希薄化が進行し、保証人不在者をはじめとする身寄りのない患者の支援に課題を感じる場面もあると思います。

退・転院支援を行う中で、MSWの専門性や大事にしないといけないものは何か？このワークショップを通して、皆さんと一緒に考えていけるような機会にできればと思っています。さらに、身寄りのない患者へのMSWとしての関わり方や支援の実際などを通じて、今後求められている退・転院支援のあり方について考えるためのきっかけになれば幸いです。

参加申し込みについて

○申込方法

申し込みフォームにアクセスしていただき、必要事項をご記入下さい。
参加申込と入金両方が確認できた時点で受付完了となります。

申し込み受付期間：2022年9月1日（木）～10月31日（月）

申し込みフォーム：<https://fukuokamsw-kyushu2022.peatix.com/>



【申し込みフォーム
QRコード】

○参加費

種 別	参 加 費
九州各県医療ソーシャルワーカー協会の会員（注1）	3,000 円
非会員	5,000 円
学生（注2）	2,000 円

注1：会員とは、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の医療ソーシャルワーカー協会の会員となります。

注2：学生とは、大会期間中に大学・短期大学・専門学校における社会福祉士・精神保健福祉士養成課程に在籍中の方とします。

注3：1日のみの参加の場合も同額です。

○お願い

- ・大会2日目のワークショップの関係上、原則1端末に1人での参加でお願いします。1端末に2人で参加となる場合は、申し込みフォームの備考欄にその旨を記載して下さい。1端末で複数人参加の場合も参加者全員のお申込が必要です。
- ・大会2日目のワークショップについては、第3希望まで選択して下さい。先着順で調整させていただきます。

参加に関して

- ・大会中、カメラ機能は常にONとし、グループワーク時以外はマイク機能をOFFでお願いします。（ホストより参加者のマイク機能の操作を行わせて頂く場合があります。）
- ・ワークショップでは、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用します。
- ・大会1日目にオンライン懇親会を予定しております。是非ご参加下さい。

【ご質問・お問い合わせの連絡先】

ふくおか大会実行委員会 事務局 梶平

〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通1-12-11 広瀬病院 地域医療連携室

FAX：092-738-2631/E-mail：soumu@msw-fukuoka.jp

※お問い合わせは、メールもしくはファックスにてお願いいたします。